

折尾愛真

NEWS LETTER



2013年 2月
11号 Vol. 64

〒807-0861 福岡県北九州市八幡西区堀川町12番10号
TEL 093-602-2100 (代表) FAX 093-692-5690
E-mail: info@orioaishin.ac.jp
URL: http://www.orioaishin.ac.jp/

学園聖句： 「光の子らしく歩きなさい」
(エペソ人への手紙5章8節)

建学の精神 *Since 1935* (昭和10年)

- ・キリスト教に基づく人格教育を行います。
- ・専門教科による職業教育を行い、有能な人材を育成します。
- ・自主独立の精神を養います。
- ・国際交流による国際理解教育を行います。

普通科

- 特進コース
- 普通コース
- 健康福祉コース
- 保育コース
- インターコース
- 一貫コース

看護科

- 看護科
- 看護専攻科

商業科

- 商業コース
- 美容専科コース
- 製菓衛生師コース

看護科・看護専攻科

看護教育講演会

1月19日(土)、第3回教育講演会がありました。今回は、聖マリアンナ医科大学病院の看護部長高橋恵先生をお迎えし、看護のちから—看護師だからできること—と題して講演をしていただきました。今年度最後の教育講演会に生徒たちも真剣に臨んでいました。



講演中の
高橋 恵先生

折尾愛真株式会社

賀詞交歓会に参加

1月17日(木)、折尾商連主催の新年の賀詞交歓会がありました。本校の折尾愛真株式会社より、総務部長の松山礼麗(3年8組)さん、総務次長の安西康彦(2年7組)さん、経理部長の吉田千景(2年7組)さんの3名が参加しました。代表で松山さんをご協力への感謝と全国に一日でも早く知ってもらえるよう努力する決意を述べました。また、伝統の折尾神楽の披露もあり和やかな雰囲気うちに終了しました。



健康福祉コース

介護福祉士国家試験壮行会

第25回介護福祉士国家試験が西日本展示場で1月27日(日)に行われました。試験に先立ち、1月25日(金)



壮行会があり代表の永家総志さんが期待に応えられるよう全力で頑張ると力強く述べていました。結果は3月下旬に発表されます。

製菓衛生師コース

洋菓子特別実習

1月16日(水)、1年生の洋菓子特別実習がありました。今回は講師に、福岡市南区にある「トゥレジュール」のオーナーパティシエ成瀬秀樹氏をお迎えし、焼き菓子の基本的な製法と技能について学びました。フランス語で書かれたレシピに戸惑いながらも必死にメモを取っていました。Madeleine(マドレーヌ)、Financier(フィナンシエ)、Financier CHocolat(フィナンシエ チョコラ)、Cake orange(ケーキ ランゾユ)の4種類のバターケーキを作りました。



講義中の成瀬氏
と Madeleine
(マドレーヌ)



韓国留学報告 商業科 2年 吉田 千景さん (大島中学出身)

「私は、京花女子高等学校へ、二度訪問しました。前回は会話が弾まず、自分の語学力不足を痛感した1週間の研修でした。流暢な韓国語で彼らと話がしてみたい、もう一度会いたいと思い、今回の留学を決意しました。前回とは違い約3か月の留学で、韓国人4人と寮での共同生活、週末ごとに約10回のホームステイを経験し、すべて韓国語で授業を受け、日本人は私1人だけです。日韓の問題も多い時期での留学だったため、とても不安だったのですが、京花の方々には日本人の私を心温かく迎えてくださいました。友人とも再会することができ、いつも私の周りには誰かがいて、気がつけば全クラスに友達がいました。毎日8時間の授業を受け、寮で3時間勉強をします。正直、大変な面もありましたが、いつもそばで支えてくださった先生方や友人のおかげで頑張ることができました。最初は”外国人”として迎えられた私ですが、日に日に韓国人同様に扱ってくれる親友もでき、私のために悩んで怒って励ましてくれるルームメイトに出会えて本当によかったです。起きてから寝るまで韓国語のみの生活であったおかげで、語学力の成長を実感しています。この留学で私は、両国の良さ、悪さも知り、将来の夢も見つけることができました。私にとってこの留学は、一生忘れることのできない大切な思い出です。私を留学に送り出してくださった先生方、両親、この学園に感謝します。」



京花女子
高等学校の
クラスメイト

右から
2番目が
私です。



校外学習

2月8日(金)北九州アイススケートセンターにて1年生対象に校外学習がありました。初めての生徒も数時間後には滑るようになり楽しい時間を過ごしました。



スケート教室

国際交流

韓国留学生帰国

1月15日(火)、韓国の姉妹校京花女子高等学校からの留学生2名が、1年間の学びを終え送別の礼拝が行われました。挨拶で、来日した時は日本語もあまり話せず迷惑をかけ、先生方の優しい指導や生徒のみなさんの協力で1年間の学びができたこと感謝の言葉を述べていました。



挨拶をしている
崔 柔美さん(右)と
朴 守眞さん(左)



「折尾駅今昔物語」第6回 エピソード⑥

1953(昭和28)年4月1日から75日間折尾駅裏の折尾公園(現学園通り付近)で戦後初の北九州産業大博覧会(折尾観光協会主催・八幡市・八幡商工会議所協賛)が開催され開会式は花火の打ち上げやハト50羽を放ちこれを合図に演芸大会で開幕した。会場は出品申し込みが殺到し計画展示館に収納しきれず増設に追われたとのことで一方入場者100万人を予定しており前売券も開会前に大半が売れて前景気上々であった。1959(昭和34)年7月13日夜半から北部北九州に稀有の局地的集中豪雨があり満潮時と重なり堀川が増水氾濫し筑豊線関係から浸水し14日7時頃不通となった。駅本屋も水深16cmまで達し大混乱となったが駅全員が一致団結し対応した結果17日の全線開通まで大過なく業務が遂行できた。1960(昭和35)年11月19日当時大坪八幡市長はじめ市当局が折尾駅前広場の狭隘を憂い再開発事業の公聴会などを開催し積極的に取り組まれ、また、マスコミも取り上げられたが一部地元民の反対や事業資金の目途がたない現状であった。たとえ折尾駅を離れても年1回どのように改善されてゆくかこの目で確かめたいと駅員みんなで「折尾会」を始めた。前年青木駅長時代も駅員会を開催していたのでこのときを第1回として以後現職駅長主催で現在まで継続している。この種会合では異例の長寿である。なお、当時の駅長の駅管理に関する悩みはご利用のお客様・地元民と行政・上司・駅員とのトラブル防止などで想像を絶するものがあつたことが第38第真鍋駅長の文で偲ばれる。

資料提供：田原耕作氏